

## 生物科学科（高分子機能学専修分野）の 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

理学部生物科学科（高分子機能学専修分野）では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材を育成することを目標として、以下のとおりカリキュラムを編成・実施します。

### 1 年次

主に1年次学生を対象とする全学教育科目では、専攻する分野にかかわらず、本学の学生であれば当然身につけておかなければならない共通の素養として、高いコミュニケーション能力、人間や社会の多様性への理解、独創的かつ批判的に考える能力、社会的な責任と倫理を身につけることを目的として、カリキュラムを編成しています。

具体的には「一般教育演習」、「総合科目」、「主題別科目」、「外国語科目」、「外国語演習」、「共通科目」に区分される教養科目（コアカリキュラム）を開講します。また、専門科目を学ぶ心構え、基礎知識を身につけることができるように、基礎科目を開講します。

### 2 年次以降

2年次以降では、生物科学科（高分子機能学専修分野）の専門性を深めるため、1年次全学教育科目の基礎科目から化学、物理学、生物学の科目を幅広く履修することを推奨します。

理学部共通開講科目から幅広い分野を履修することを推奨します。

専門科目（講義・演習）は「数学・数理科学」、「物理・物理化学系」、「化学・物理化学系」、「生物科学系」からなり、それぞれ複数の科目を4学期制で集中開講します。

全ての専門科目（講義・演習・実験）は体系的に基礎的科目、発展的科目、実践的科目として学期ごとに開講します。

英語で学ぶ専門科目を2～4年次に開講します。

実験科目は2-3年次のグループ学習と、3-4年次の個別実践学習として開講します。

個別実践型実験科目では、研究室配属型指導体制とし、主体的な学習経験を利用しやすい環境を提供します。

在学中の海外留学による学修成果は、学位授与水準に定めた能力を持つ人材として評価します。

### 学習成果の評価の方針

#### I 成績評価の基準

1. 成績評価にあたっては、本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる本学科の「養成する人材像に求められる具体的な能力（学位授与水準）」を踏まえ、授

業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の「学修成果の質」（達成度）に応じて行います。

2. （相対評価的な要素が必要な科目の場合）11段階評価とする

成績分布は、「A+」及び「A」=10～20%、特に「A+」は5%以内、「A-」及び「B+」=20～40%、「B」及び「B-」=20～40%、「C+」、「C」、「D」、「D-」及び「F」=10～20%を目安として成績評価します。

3. （絶対評価的な要素が必要な科目の場合）

具体的な「到達目標」を定め、達成度に応じて評価することとし、成績分布の目安は示さないこととします。

4. （同一科目を複数教員が開講する等、公平性の担保が必要な科目の場合）それぞれの科目において評価の段階を統一します。

5. 授業科目ごとに適切な「到達目標」が設定されており、当該「到達目標」に基づく成績評価の結果を学期ごとに検証し、必要に応じて再検討します。

## II 成績評価の方法

1. 成績評価は、試験結果、レポート評価、成果発表（プレゼンテーション）、学修態度等により行います。

2. 授業への出欠状況を単に点数化し評価に用いることはありません。

3. 具体的な評価方法は、授業担当教員が定めます。